

早期育成プロジェクト参加報告書

審判員名	眞榮喜 工	所属	高体連
研修会名	平成26年度 国際審判早期育成プロジェクト		
大会名	「東日本大震災」復興支援 第90回天皇杯・第81回皇后杯 全日本総合選手権		
期 間	平成27年1月10日(土)～1月12日(月・祝)		
会 場	国立代々木競技場第一体育館 会議室		
参加者	小田中涼子(26歳・岩手県) 富樫 彰子(29歳・宮城県) 大山 賢史(28歳・栃木県) 武井 晋平(29歳・栃木県) 眞榮喜 工(27歳・埼玉県) 細田 知宏(29歳・東京都) 川島 司(28歳・東京都) 吉田 智子(29歳・石川県) 太田麻須美(25歳・愛知県) 宮里 両(32歳・兵庫県) 稲田 篤(28歳・鳥取県) 米村 悠美(29歳・山口県) 古後 宏和(32歳・福岡県) 男性 8 名・女性 5 名 計 13名		
スケジュール			
1月10日(土)			
9:45～	開講式	審判委員長 吉田 利治 氏 指導グループ長 湯浅 暢宏 氏	
10:00～10:15		早期育成プロジェクトについて 指導グループ副長 平 育雄 氏	
10:15～12:00	研修Ⅰ	ルールテスト及び語学研修	
	昼食		
13:00～15:20	研修Ⅱ	皇后杯準決勝 観戦研修 観戦研修終了後(ディスカッション)	
15:30～16:50	研修Ⅲ	国際審判の活動について 須黒 祥子 氏 ナショナルチーム帯同遠征の経験から 中嶽希美子 氏	
17:00～19:30	研修Ⅳ	天皇杯準決勝 観戦研修 観戦研修終了後(ディスカッション)	
19:30		1日目終了 解散	
1月11日(日)			
9:45～	国際審判員研修会開講式(同席)		
10:00～10:50	国際審判員研修会	アジア競技大会報告 東 祐二 氏	
11:00～12:00	の聴講	NBLレビュー NBLレフェリーディレクター 阿部 哲也 氏	
	昼食		
13:00～13:50	研修Ⅴ	3×3活動について 岩田千奈美 氏 3×3活動報告 緒方 崇 氏	
14:00～16:20	研修Ⅵ	皇后杯決勝 観戦研修 観戦研修終了後(ディスカッション)	
16:30～17:00	研修Ⅶ	クリニックの経験から 熊谷久美子 氏	
17:00～17:30	研修Ⅷ	グループ・ディスカッション他	
17:00		2日目終了 解散	
18:30～		夕食兼懇親会	

1月12日(月・祝)

10:00～11:00	国際審判員研修会の聴講	FIBA WORLD CUP 2014 報告	平原 勇次 氏
11:10～12:00		国際審判(トップレフェリー)に望むこと	宮武 庸介 氏
	昼食		
13:00～13:50	研修IX	AA級取得までの国内での活動について	小澤 勤 氏
14:00～16:20	研修X	天皇杯決勝 観戦研修	
16:30～	閉講式	審判委員長	吉田 利治 氏

研修内容

【研修Ⅰ ルールテスト及び語学研修】高城邦弘氏・服部智博氏

・英文ルールテスト 二者もしくは四者択一問題 ・英会話(インタビュー方式)
 〈インタビューテーマ〉出身地、仕事、バスケットボール歴、審判歴と始めた理由、今までの審判経験で最も難しかった場面について、夢とその実現のために必要なこと、英会話の練習法について、等。
 〈講師からのアドバイス〉簡潔に答えること。説明できない言葉は用いない(日本人は知っていても、他国人には知らないこと)。完璧な英文法よりも伝えようとする意志が重要。

【研修Ⅱ 皇后杯準決勝観戦研修】平育雄氏・中嶽希美子氏

観戦研修終了後、現役国際審判員を交えてのディスカッションが行われた。選手・ベンチ・観衆が知っている、審判が知らないことが起こった時などにゲームコントロールは失われる。全ての選手・プレー・ベンチ・時限等を如何に協力して把握するかが重要だということ。そして、エリアとは区切られた地域ではなく、プレーヤーとそのプレーにより変化するものだと話をされた。また、一つ笛を入れることで、その後どのように発展するかも考えながら観戦するようにと平氏より指摘された。

【研修Ⅲ 講義】須黒祥子氏・中嶽希美子氏

海外での写真や実際の活動風景の動画を交えて講義された。話すこと、書くことは当然であり、重要なのはコミュニケーション能力、パーソナリティ、危機管理能力、そして如何なる環境でも自分を保てる強さである。また、自分の役割や周囲の支えを理解した行動を心掛けるようにと話された。

【研修Ⅳ 天皇杯準決勝観戦研修】平育雄氏・小坂井郁子氏

コート上いたる所で様々な接触があり、女子準決勝とは別の競技を観ているかのようなようだった。自分のエリアで行われていることだけを見ては、絶対に試合にマッチした判定をすることは不可能だと感じた。コート全体を理解したうえで、自分の責任プレーを確認し、どのタイミングで取り上げるべきかを判断しなければならない。観戦後のディスカッションでは、センターオフィシャルのいる意味を理解し、アングルの工夫により高さを維持することの重要性など、メカニクスについて話した。

【国際審判員研修聴講】東祐二氏・阿部哲也氏

アジア競技大会の報告及びNBLレビューとして、シチュエーション動画を用いて「想定外を想定する」。様々なことへの予測・準備・対応を想定し、多くの引き出しを持つておくことが重要であると講義された。

【研修Ⅴ 講義】

3×3がもたらすバスケットボールの普及と発展についての説明があった。また、ハーフコートで行われるが想像以上にスピーディー且つエキサイティングであり、5on5とは別競技だと映像を見て感じた。

【研修Ⅵ 皇后杯決勝観戦研修】小澤勤氏

試合の序盤のリバウンドファウルから審判同士の判定基準の一貫性、意思の疎通が見られ、選手にはっきりと示された試合だと感じた。コーチへの対応の早さ、ベンチ管理の協力等、細やかなアイコンタクトや共通認識あつてのものだった。メカニクスにおいては、前日に話されたセンターオフィシャルの体の位置と向きが非常にわかりやすかった。

【研修Ⅶ 講義】熊谷久美子氏

クリニックの内容や国際審判員に求められていることを講義された。最も重要なことは、「よい人間であること」と「強さ」である。そして日本で求められていること、指導されていることはFIBAで求められていることと同じだと話された。

【研修Ⅷ グループディスカッション】

3グループに分かれ、①目標②課題③解決策の3点について、現役国際審判員のアドバイスを受けながらディスカッションを行った。それぞれの意見を伝え、引き出すというコミュニケーション能力に加え、15分間のディスカッションに2分間のプレゼンテーション時間管理能力も試される内容であった。

【国際審判員研修聴講】平原勇次氏・宮武庸介氏

海外では日本では考えられないようなことが、本当に多く起こること、それに揺るがぬ精神と身体を常に準備しておくことの大切さを共に話された。その強さとは常に向上心を持ち、日頃の積み重ねから生まれるものだと。また、ヨーロッパや世界での現在の流れなど、映像を交えて説明された。

【研修Ⅸ 講義】小澤勤氏

次年度よりAA級に昇格される4名への質問を交えて講義された。現在に至るまでにやってきたこと、それを最低限続かなければならないこと、更に向上するためには今まで以上にやらなければならない。そして、審判員としてだけでなく、一社会人として周囲から信頼されるようにと話された。

【研修Ⅹ 天皇杯決勝観戦研修】

担当された審判員3名の作るトライアングルの連動性の凄さを感じた。誰かが動いたとき、面積の増減はあっても、辺の比が大きく変わることがほとんどなかった。リードがサイドを変えるときは、センターがリードに来てほしいとき、それをトレイルも分かっているからバランスが崩れない。コートで行われていることに対しての共通認識があり、ボールがライブ中テーブルサイドでベンチに警告を与えた際にオポジットサイドにも共有していた。

全体の感想

観戦研修において「自分がこのコートに立ったら」と考えながら観戦した。とても怖かった。ただ、このようなトップレベルのバスケットボールのプレーを誰よりも近くで観ることができ、コート内に立てるのは選手以外に審判だけである。今回、トップレベルの審判、試合を間近で感じ、同世代の同じ志を持った仲間と出会えたことで、より思いが強くなった。一方で、「覚悟はありますか」という最後の平指導グループ副長の言葉が胸に刺さった。語学力、家庭や職場環境、地元での活動、バスケットボールを知ること、まだまだ求めなければならない。今までの自分を改め、今後の活動につなげていきたい。

最後になりますが、吉田審判委員長をはじめ日本協会審判委員会、総務グループの皆様には本当にお世話になりました。また、今回参加推薦を頂きました安西ブロック長をはじめ関東ブロックの皆様、県内大会開催期間中であるにもかかわらず、参加を後押しして頂いた吉田審判長をはじめ、埼玉県の皆様には心より感謝申し上げます。有難う御座いました。

以上